



# TECUM Letter

2018年8月号 創刊第4号 (通巻5号)

## 目次

0	はじめに — 2018年度約半年間の TECUM の活動について	1
1	賛助会員のページ	2
2	連載論考 「数学の世界」と「物理学の世界」 No.5	3
3	新連載：「数学的な思考力」の難しさ —— 初等数学の困難 No.2	6
4	連載：スクリプトの開く世界	8

## 0 はじめに — 2018年度約半年間の TECUM の活動について

いよいよ TECUM が法的に認証された法人としての活動に入ります。本号は、おそらくみなし法人（法的には任意団体）としての TECUM からの『TECUM Letter』の最終号となります。次号では、「特定非営利活動法人申請珍道中」を御報告できるでしょう。

さて、5月の研究会が、たまたま、大学食堂の使えない日曜日にぶつかったこともあり、医学関係の学会の真似をして、必ずしも学理的でない講演（実際の学校で使われている問題演習の実態を数学の立場から見るとどうなるかという主題の短い講演です）を luncheon seminar としてやりました。

その企画に対する参加者の好意的な反応に気を良くして、8月の研究会は二日間連続として、初日の22日に、若手数学教員を対象とした「TECUM 数学教育公開教育ワークショップ (TECUM Open Workshop on Mathematics Education '2018)」を開催しました。「教科書を素早く終えて入試問題演習に時間をかける」という、最近の中学、高等学校で一般化した数学教育の内容とスタイルのもつ問題点を一緒に考えて、少しでも、より良い教育（学習者にとってより深い数学的な理解を実現することで、より楽しく、より効率的な数学教育）を実現するための知恵を編み出していこうという趣旨の作業的な勉強会の趣旨でしたが、このような研究会の組織に対して、TECUM のみならず、数学教育の関係者が不慣れであったこともあり、それなりの予算を組んで用意した教材を使い切ることができませんでした。広報活動がほとんどなされていなかったこともあり、会場から溢れる心配は不要であったことなど反省点も数多くありますが、「中央大学付属」、「茗溪学園」、「広尾学園」などから複数の参加者を得て TECUM 会員の輪が広がる可能性を実現したこと、また、終了後の参加者アンケートからは充実した研究会になったことが分かりました。

翌日は、いつもの定例研究会となりました。夏期休暇中にも関わらず、御都合をつけて多くの方が参加してくださいました。一般会員の他に、落合卓四郎先生をはじめ2日間連続で参加して下さった賛助会員、非会員の方もいらっしゃいました。次回の研究会は、11月11日、場所と時間は前回と同様です。

TECUM は NPO 法人になっても、従来と同様の活動を引き続き行って参りますが、新法人は法的には旧組織とは別組織ですので、会員の皆様には、大変申し訳ありませんが、「NPO 法人 TECUM」への入会手続きを